

平成29年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>【本校】 （成果） ○進路指導、特に進学面においては、同窓会等の支援により大学生学習コーチ補習支援プログラムを取り入れたことにより、4年制大学受験を希望する生徒の学習意欲を向上させることができ、さらに、特進コース生徒については、9月に2日間強化学習会を実施することにより、クラス全体が卒業まで受験に向けたクラス体制の基礎固めができた。 ○総務企画部が中心となり、京都フロンティア校として「綾部学」の取組や国際交流（中国、台湾、韓国、米国）の取組を実施することにより、地域社会に貢献できる教育活動や国際感覚を養う機会となった。 ○施設設備関係では、LL教室にエアコンを設置し、英語活動をはじめ、様々な学習会等に活用できるようになった。また、渡り廊下にも放課後の学習の質問に答えられるよう机と椅子を設置し、学習環境を充実させることができた。また、美術教室にもエアコンを設置し、快適な環境で授業や部活動に取り組みできるようになり、綾部市との連携によりLINEのスタンプ作成・登録にも貢献することができた。 ○部活動においては、運動部は、カヌー部がカヌースプリントジュニア大会と国民体育大会で優勝するなど日本一となることができた。文化部では、書道部が京都府高等学校総合文化祭書道部門で最優秀賞を受賞し、来年度に宮城県で開催される全国大会に出場できることになった。 ○PTA・同窓会の協力のもとで進路講演会を実施することができ、キャリア形成に向けた貴重な進路学習となった。</p> <p>（課題） ○学習と部活動の両立に向けて学校全体で組織的に取り組まなければならない事項について、職員会議等で再確認し、教職員全体で取り組めるよう働きかけたが、教育活動アンケートでも学力向上に向けた取組や進路指導面での不十分な点について指摘いただいているので、その点については、学力向上を最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組み、より一層、綾部高校としての特色ある教育活動を展開する必要がある。 ○部活動や校外学習での怪我とインフルエンザによる欠席者が例年より多かったため、次年度以降、健康安全教育の校内体制づくりに反映させていく必要がある。 ○自転車乗車時のマナーや保護者の送迎による自動車の駐車について、地域の方々に御迷惑をかけていることから、PTAと連携した継続的な取組が必要である。また、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と「確かな学び」を実現する学習環境づくり ・系統的・組織的な進路指導体制の確立 ・豊かな人権感覚や国際感覚、シティズンシップの育成 ・健康安全教育の推進と部活動の充実 ・地域社会の活性化に貢献できる教育活動

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
1 組織・運営	教職員の連携を強化し、組織的な学校運営に努める	教職員がチームとして共通の目標と各自の役割や責任を自覚し、選択と集中を明確にして業務に当たる。 各種会議（特に進路指導会議、生徒指導会議）の機能を強化させる。		
2 総務企画部	広報活動の充実	ホームページを見やすくし、更新をスピーディに行う。 「綾高だより」の紙面を充実し、綾部高校生の躍動感あふれる内容にする。		
3 教務部	生徒の基礎学力の定着	生徒の学習状況の実態を把握し、生徒たちに合った学習環境を作る。 教科担当者会議を見直し、生徒たちの学ぶ意欲を向上させる。		
4 生徒指導部	基本的生活習慣を確立する	挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。 常に身だしなみを整えるように、職員全体で指導を徹底する。		
5 進路指導部	希望進路の実現に向けた確かな学力の育成	基礎学力の定着とそれを応用できる学力の育成に向けた学習環境の整備を図る。 模試データの分析を充実し、各生徒の学習課題の発見とその解決に向けた取組を推進する。		
6 保健部	命と身体を大切に生徒を育てる	健康管理、危機管理についての知識と意識を持たせ、健康で安全な生活を送れるようにする。 保健だより等を活用し、さまざまな健康課題について考えさせ、生活に活かせるように指導する。		
7 第1学年部	学習習慣を確立させ、基礎学力を定着させる	チャイムと同時に授業を開始でき、授業にしっかりと臨ませる指導を徹底する。 教科担任と連携を密にし、個に応じた指導を行う。		

分掌 教科	項目（重点目標）	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
8 第2学年部	基本的生活習慣の確立	挨拶や身だしなみ、規則を遵守する指導を徹底する。		
		ベル着ベル準、スマホの違反使用の撲滅を呼び掛け、教科担当と連携を密にしながら授業を大切にす姿勢の徹底を図る。		
9 第3学年部	希望進路を実現させる	進路意識を向上させ、実現に向けた取組を強化する。		
		基礎学力の定着を図り、それぞれの進路に応じた力を育成する。		
10 事務部	会計財務の適正及び有効な執行と教育の諸条件整備	生徒の学力向上と希望進路実現に向けて、教育環境改善と教育内容の充実にも有効的な予算執行に努める。		
		教育方針及び教育指導に則した予算の計画的・効率的・効果的な執行を行う。		
11 国語科	基礎力の上に立った、運用能力、実践力の育成	学力層に応じた学びを大切に、A L、演習等多様な方法を用いて、共に学ぶ授業を展開する。		
		適切な小テスト、課題を恒常的に与え、生徒が家庭学習に主体的、継続的に取り組めるよう支援する。		
12 地歴公民科	基礎学力の定着をはかり、希望進路の実現に努める	定期的小テストを実施し課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。		
		時事問題や地元の身近な題材を取り上げ、生徒が興味関心を示す授業となるよう努める。		
13 数学科	学力の向上のため家庭学習の習慣の確立	定期的に演習課題、小テストなどを行い基礎学力を定着させる。		
		授業規律を確保する。		
14 理科	コースに応じた指導の工夫	4コースに対応し、かつ生徒一人一人の希望進路実現に向けた効果的な学習指導を行う。		
		年間学習指導計画に基づき、生徒の知識が定着し、理解が深まるような授業展開に努める。		
15 保健体育科	授業規律を確立する	安全面に留意し、挨拶、集団行動等、きびきびとしたはじめのある授業を行う。		
		時間を大切にする意識を持たせ、遅刻をなくす。		
16 英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる	言語を学ぶ背景として、歴史・文化・社会にも興味を持たせて理解を深める。		
		基本的な文法と語彙を学習し、実践的コミュニケーション能力を伸ばす。		
17 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる	授業規律を大切にす。		
		授業時間を有効に活用し、完成度を高めるための姿勢を身につけさせる。		
18 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す	家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことが実際に生かせる授業を展開する。		
		基礎的な知識や技能の定着を図る。		
19 情報科	情報モラル意識の育成	個人情報の使われ方を通して、自己の個人情報について学ぶ。		
		知的財産権（著作権・特許権など）の歴史を通して、その重要性を理解させる。		
学校関係者 評価委員会 による評価				
次年度に 向けた改善の 方向性				